

県内学校ミニ・ニュース (船橋市立船橋特別支援学校)

本校は、昭和54年の開校以来、船橋市立の特別支援学校であることを意識し、児童生徒一人一人のねがいに応じた教育課程の編成を行い、保護者および地域の方々の理解と協力を得て、児童生徒の「生きる力」を育むことに努めてきました。また、市内の特別支援教育の拠点校としての機能を発揮し、市内小・中学校および各関係機関と連携を図っています。児童生徒数の増加により、小学部は平成21年度に高根台校舎へ移転しました。

今回は、文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業」を活用し、沖縄伝統組踊巡回公演に向けた、小学部の生活単元学習「はいさいエイサー」の取り組みを紹介します。



沖縄伝統音楽ワークショップの様子

5月には、沖縄伝統組踊「子の会」による沖縄伝統音楽ワークショップを行いました。琉球舞踊の紹介、手踊りやエイサーの体験等のプログラムを行っていただきました。初めて触れる沖縄文化、演者さんの本格的な踊りと雰囲気に取り込まれていきました。「パーランクー（沖縄の伝統楽器）」を手にして、三線の演奏に合わせて、ポーズを決めたり、鳴らしたりする様子に、本物の音楽の影響を実感しました。

3年生は6月に、ワークショップの余韻を残しながら、生活単元学習で単元「はいさいエイサー」に取り組みました。



思い思いにパーランクーを制作しました

単元前半は、学年の仲間みんなと、まるく切られた段ボールを貼り合わせたり、飾り付けをしたりして、オリジナルのパーランクーを制作しました。また、ステンシルで模様を付けたオリジナルのはちまきも作りました。単元後半は、手作りのパーランクーとはちまきを身に付けて、7月の沖縄伝統組踊巡回公演に向け、学年全員で本格的にエイサーの踊りに取り組みました。3年生の教室からは、毎日、エイサーとパーランクーの音色が響きわたりました。

7月、沖縄伝統組踊巡回公演の当日、栄養士さんの計らいで、給食もジュースやソーキ汁などの沖縄料理でした。琉球舞踏や沖縄音楽コンサート、公演の最後には3年生が取り組んできたエイサーをプログラムに盛り込んでいただきました。掛け声を楽しみに声を出す子、踊りを覚えて音楽に合わせて踊る子、パーランクーを叩いて音を出す子、それぞれに楽しさを見つけ、全校の子供たちや教職員、演者みんなが一体となって、盛り上がった一日でした。

公演後は、演者さんにみんなで作ったお礼の手紙をプレゼント。初夏に、沖縄の雰囲気一色の生活となりました。



沖縄伝統組踊「子の会」の皆さんと一緒に



みんなでエイサー